

# 海洋性スポーツに対する行動意識に関する研究～山岳性スポーツとの比較から～

## A study on the action awareness for Marine sports

### ～By comparison with mountains-related sports～

1K06B112

指導教員 主査 木村和彦先生

柴田 眞奈

副査 原田宗彦先生

#### 緒言

近年、健康志向の高まりによるスポーツへの注目と、環境に配慮した世の中の流れによる環境（自然）への注目が重なり、アウトドアスポーツへの注目が高まってきている。実際にビーチクリーン（海岸清掃）のイベントや、山の清掃・植林などの企画が増加していて、メディアでも積極的に取り上げられている。

本研究では、アウトドアスポーツの中から選ばれた数種目を「海洋性スポーツ」と「山岳性スポーツ」に二分し、それぞれに対する意識や過去の行動を調査・比較することで、海洋性スポーツの特性や実施に対する特有の阻害要因を考える。

#### 方法

平成21年10月16日、本学スポーツ科学部の学生を対象に留置法による質問紙調査を行った。海洋性スポーツ・山岳性スポーツの「実施状況」「実施要因」「実施の阻害要因」「イメージ」等を質問し、両者を比較することで分析を進めた。全てのデータの分析には SPSS 社の統計解析ソフト（SPSS17.0 for Windows）を用いた。

#### 結果

1) 実施状況：海洋性スポーツでは「海水浴」が、山岳性スポーツでは「スキー」の実施が最も多く、特定の数種目に実施が集中していて、人気が高くメジャーな種目とそうでない種目の

差が大きい。

2) 実施要因：海洋性スポーツ・山岳性スポーツともに「友人・家族からの誘いが」84.8%・77.3%とほとんどを占めた。また、顕著に差が現れたのは山岳性スポーツのほうが「授業」で実施した割合が大きい。

3) 実施の阻害要因：海洋性スポーツは「機会がない」が約47%で最も多く、次いで「海が遠い」約35%、「時間がない」約28%となった。調査対象が大学生であったことも関係してか「お金がない」も24.1%と多かった。山岳性スポーツは「山が遠い」が約38%で最も多く、次いで「興味がない」約35%、「時間がない」「機会がない」約30%という結果になった。両者ともほとんどが一般的なスポーツ実施の阻害要因と同じものが挙がり、独特と考えられるものは「遠い」のみであった。

4) イメージ：因子分析の結果「実施環境因子」「感情因子」「スポーツ獲得因子」の3つの因子が抽出された。因子得点と実施経験の比較からは、「海水浴」の実施環境要因に対して実施ありのほうに有意に因子得点が高かった。両者の比較からも、海洋性スポーツは楽しい、または楽しそうというイメージはもたれているものの、海が汚い・設備が整っていないといった実施環境面に問題を抱えている可能性が示唆された。

#### 考察

実施状況を見ると海洋性スポーツよりも山岳性スポーツの方に運動強度が高い種目が多く

挙がっており、海洋性「スポーツ」の実施率は非常に低いことが示唆された。「設備」が山岳性スポーツよりも整っていないというイメージからも、海洋性スポーツを行う環境がまだしっかりと確立されていないことが伺える。

スポーツ実施の大きな阻害要因である「機会がない」を解消するために、海洋性スポーツに触れるきっかけを増やすことはできないだろうか。

海洋性スポーツの普及には特徴や特有の実施阻害要因など十分に理解し、効果的な施設の設置やイベントを開催するなどのシステム構築をすることが必要である。その為にはスポーツ自体の特徴を熟知している各種目の競技団体や協会、スポーツNPOなどの協力の上で、今後の方針を考えていけばよりよいスポーツの環境づくりが可能になるのではないだろうか。